

	信州大学 人文科学分野
学部等の教育研究組織の名称	人文学部（第1年次：155名 第3年次：10名） 人文科学研究科（M：10名）
沿革	大正8（1919）年 松本高等学校 設置 昭和24（1949）年 信州大学文理学部 設置 昭和41（1966）年 文理学部を改組し、人文学部を設置 昭和53（1978）年 人文学部を改組し、人文学部、経済学部を設置 昭和57（1982）年 人文科学研究科 設置
設置目的等	昭和24（1949）年に、文理学部が設置された。 昭和41（1966）年に、地域社会の要請やそれぞれの専門的学術の研究教育に十分に対応することを目的として、文理学部を人文学部へ改組された。 昭和53（1978）年に、人文学部を人文学部と経済学部へ改組された。 昭和57（1982）年に、「哲学・歴史学・社会学・文化人類学・文学・言語学等、人文諸科学の広範囲な学問領域相互の緊密なる協力態勢のもとで、その本質、その構造、その多様性と普遍性、その他、文化にかかわる種々の問題を、多角的に分析し、総合的・学際的・比較論的に研究することを目的として、人文科学研究科が設置された。
強みや特色、社会的な役割	<p><b>【総論】</b> 信州大学における人文科学分野においては、真理の探究を図るとともに、地域における課題解決の役割を果たすべく、教育研究を実施してきた。 引き続き、上記の役割を果たしながら、教育及び研究において明らかにされる強み・特色・役割等により、学内における中長期的な教育研究組織の在り方を速やかに検討の上、実行に移す。</p> <p><b>【教育】</b> (学部)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 人文科学分野の教育研究を通じて、柔軟な認識能力・多角的分析能力・豊かな表現力を有し、広く社会で活躍できる人材を養成する。</li> <li>○ 平成25年度の学部改組に合わせて、段階的・階層的専門知の修得が可能となるカリキュラムに体系化するとともに、学生が幅広く履修できるよう、履修要件やカリキュラム等の見直しを図っている。</li> <li>○ 今後、学生・社会からは国際化への対応を期待されており、平成23年度より取り組んでいる「外国語サロン・多文化交流サロン」や改組に</li> </ul>

より4年間を通じて必修化した外国語指定科目の履修を通じて、実践知を身につけたグローバル人材の育成に努めていく。今後、卒業時に必要とされる資質や能力を可視化しつつ体系的な教育課程を編成するとともに、学生の能動的学習を促す教育の実施や組織的な教育体制等により、学士課程教育の質的転換に取り組む。

#### (大学院)

- 論理的思考と実践的問題解決法、表現能力を有する専門職業人を養成する。
- 今後、大学院修士課程については、早急に規模を含めた教育組織体制の見直しに着手する。その際、「水」をテーマとした文理融合・産学連携による研究等、学内資源の再配分も踏まえつつ、既存の研究科の枠にとられない分野横断型の新たな研究科の設置を検討する。また、社会人、留学生を含め、時代の動向や社会構造の変化に的確に応え、課程制大学院制度の趣旨に沿った教育課程と指導体制を充実・強化する。

#### 【研究】

- 平成17年度より「地域ブランド研究会」を設置し、人文科学的視座から地域の魅力ある潜在的文化・産業・食・水資源等にアプローチする研究手法を確立する取組を推進している。
- これらの取組を通じて、例えば、大町市のブランドを掘り起こし、認知度を高めることを狙った「黒部ダムカレー」の商品展開や、国土交通省の「水の里旅コンテスト2011」の大賞受賞による『めぐり信州大町うるおいの二日間』の商品化を提案するなど、人文科学的視座から魅力ある地域の文化・産業・食資源等の発掘を行っている。また、大町市による水の里を意識した観光プランの企画等につなげている。
- 今後は、例えば、現在、組織的に取り組んでいる「水」をテーマとした文理融合・産学連携による研究を推進するなど、学長が推進する「信大改革」の一環として、人文科学の枠にとられない学際性を持ち合わせた領域横断型の新たな研究組織を参考に、強み・特色を踏まえた組織を構築する。その際、研究により得られた知見を教育並びに地域に還元することを念頭に計画するなど、地域と大学のつながりをより一層明確に打ち出す。また、地域の課題解決・文化の発展に組織的に取り組む。

#### 【その他】

- 学問分野の細分化を解消し、幅広い人材育成を図るため、平成25年度の学部改組を行い、カリキュラムの体系化や教育課程の見直しに取り組んでいる。

引き続き、全学的な機能強化を図る観点から、18歳人口の動態や社会ニーズを踏まえつつ、人文学部、人文科学研究科の組織の在り方、国際

化への対応等、学部・大学院の教育課程及び組織の在り方、規模等の見直しに取り組む。

- これまで松本市において芸術ワークショップをはじめとする芸術イベントを 12 年間にわたり展開しており、この取組を茅野市にも広げながら、地域の文化芸術の振興に寄与している。